

本年度の重点に対する評価

| | | |
|-----------------|---|---------------|
| 本年度の重点 | 1 | 向上心を引き出す授業の創造 |
| 目標（評価規準） | すすんで学び、解決しようとする児童の育成 | |
| 重点に係る現状 設定理由 | 基礎基本の定着と理解力・表現力・思考力の育成は依然として課題である。学校研究・指導の工夫・改善に取り組むことで授業力の向上を図り、「分かる・できる」授業を実践するとともに、全体を見渡した学習支援体制を充実させることで児童自ら学ぶ力の育成を目指したい。 | |

| 評価資料 | 評 価 |
|-------------------------|---|
| 教職員アンケート結果 (具体的方策ごと) | <ul style="list-style-type: none"> ・全体的にプラスの評価が多い。 ・校内研究・研修による授業力・指導力の向上について全教職員が「できた・ややできた」と回答した。昨年度以上に充実した校内研修・職員研修が実施できたと考えられる。 ・個に応じた学習支援の取組について全教職員が「できた・ややできた」と回答した。全教職員が学年や立場を越えて子どもたちの様子を共有し、一人ひとりに寄り添った支援ができるように努めたことが効果的であったと考える。 <p><以下 教職員コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームワークアップ習慣については、保護者への周知や取組の工夫が今後も必要である。 ・書く学習を行う際の手立てについては今後も検討が必要である。 ・家庭学習に対する取り組み方（意識）の格差を感じる。 |
| 各アンケート等の結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の多くは、「工夫して分かりやすく教えてくれる」「分からないところをていねいに教えてくれる」「自分の考えや意見を大切にしてくれる」「先生の言葉は分かりやすくていねい」等、全体的にプラス評価である。 ・保護者の多くは、学校が「児童が意欲的に学習しようとする授業を目指し、努力・工夫している」「児童に体験させたり考えさせたりする活動をするよう努力・工夫している」ことについて理解を示している。 ・家庭学習や読書習慣の定着が課題であるため、図書室の有効活用や家庭への情報発信の工夫を図っていく必要がある。 |
| 自己評価結果 (見解と改善方策) | <p>自己評価の結果は、概ね良好と言える。</p> <p>「自ら学ぶ子～自分で考える・話を聞く・学び合う～」という研究主題を掲げ、①「友達の意見を受け入れ、自分の考えを持ち、伝えることができる子」、②「自分の目標を持ち、友だちと楽しく学び合う子」という2つの目指す子ども像を立て、その実現を目指し学校研究を推進してきた。一昨年度導入した「学びのプラン」という手法も3年目となり、全教職員がこれまで以上に、子どもの視座に立った授業づくりを意識して授業実践を重ねることができた。</p> <p>教育活動のさらなる充実を図るため、次のことに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教員の指導力向上、研究・研修の充実 ○「学びのプラン」の活用 ○指導の工夫改善の継続的な取組 ○児童の意欲を高める手立てを考えた授業づくりの推進 ○家庭との連携による学習習慣・読書習慣づくり ○支援を必要とする児童への組織的な対応（教員配置の工夫） |
| 学校関係者評価結果 | <p>学校関係者評価の結果は、概ね良好である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数体制での授業支援は、児童一人ひとりへの丁寧な指導・見取りにつながっている。 ・中学校でも朝読書の時間を設定しているので、連携した取り組みにしたい。 ・読解力の育成を図るためにも、読書習慣は必要である。 |
| 最終改善方策 | <p>今後もさらに「確かな学力」の定着を目指し、教育活動の充実を図るため、次の3点を中心に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業実践を柱とした学校研究を推進することで、指導力の向上を図る。 ○指導法改善による指導の工夫とともに、個に応じた学習支援体制の充実を図る。 ○家庭と連携し、家庭学習、読書習慣の充実に努める。 |

| | | |
|-----------------|--|-----------------|
| 本年度の重点 | 2 | 人権感覚豊かな学級・学校の創造 |
| 目標（評価規準） | 友だちのよさを認め、協力できる児童の育成 | |
| 重点に係る現状 設定理由 | <p>集団生活において他者とかかわることが苦手な児童も見られる。日常的な様々な場面において、自他を理解し思いやりの心をもって他者に接することのできる「豊かな心」の育成を目指したい。また、「学校いじめ防止基本方針」に則り組織的な支援体制の充実を図りたい。</p> | |

| 評価資料 | 評価 |
|-------------------------|--|
| 教職員アンケート結果 (具体的方策ごと) | <ul style="list-style-type: none"> ・「児童理解の充実、日常的な指導・支援」について全教職員が「できた・ややできた」と回答した。 ・「人権教育・道徳教育の充実」について全教職員が「できた・ややできた」と回答した。 ・「教師の人権感覚向上」について全教職員が「できた・ややできた」と回答した。 <p>人権教育担当者が定期的実施した校内研修の成果と考える。 <以下 教職員コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育担当者の働きかけにより、日々の授業や子どもたちへのかかわり等、人権を意識して取り組むことができた。 ・支援体制が充実した。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業や学級づくりの手立てを共有したい。 |
| 各アンケート等の結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の多くは、「学校はたのしい」「友だちと仲良くしている」「先生たちは子ども一人ひとりを大切にしてくれる。」「困ったり悩んだりしているときには相談にのってくれる」「学校にあるものは、安全で使いやすい」と感じ、学校が安心して安心できる場所となっている。 ・保護者の多くは、学校が「児童がいきいきと楽しい学校生活を送れるよう、日常的な指導・支援をしている」「児童一人ひとりが大切にされるよう、人権教育・道徳教育を進めている」ことに理解を示している。 |
| 自己評価結果 (見解と改善方策) | <p>自己評価の結果は、概ね良好と言える。</p> <p>児童の人権感覚や道徳心の向上に向けた取組に対し高い評価をいただいた。人権教育・道徳教育については今後もさらに推進していく。</p> <p>児童一人ひとりの心の「安心・安全」が確保された学級づくり・学校づくりに引き続き取り組む。</p> <p>人間関係の醸成・規範意識の向上を図り、豊かな心を育てるため、次のことに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童理解の充実、日常的な指導・支援 ○多様性・公平性・包括性の視点を常にもち、児童一人ひとりに寄り添う学級づくり・学校づくりの推進 ○異学年活動、体験的活動の充実 |
| 学校関係者評価結果 | <p>学校関係者評価の結果は、概ね良好である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育に重点を置き取り組んだことで、児童だけでなく教職員の人権意識の向上にもつながったと思われる。 ・引き続き、人権教育を推進するとともに、児童の活動を増やし「豊かな心」の醸成を望む。 |
| 最終改善方策 | <p>今後もさらに「豊かな心」の育成を目指し、学校生活の充実を図るため、次の4点を中心に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童指導において、学校・家庭との共通理解のもと、組織的な支援体制を中心にした対応に努める。 ○配慮が必要な児童を含めたすべての児童が安心して過ごせるような学級づくり・授業づくりに努める。 ○定期的に児童生活アンケートを実施し、児童の困り感等を把握し早期対応を図る。 ○児童自らが人権意識、規範意識、道徳心を育む機会の充実を図る。 |

| | | |
|-----------------|---|----------------------|
| 本年度の重点 | 3 | 家庭・地域との連携と健康・安全教育の推進 |
| 目標（評価規準） | 心身ともに健康で、最後までやりとげる児童の育成 | |
| 重点に係る現状 設定理由 | 心身ともに健康で、最後までやりとげる強い意志をもった児童の育成には、安心して過ごせる学校環境と豊かな教育活動の展開が望まれる。様々な方法で学校の状況を情報提供し、家庭・地域とともに子どもを育て、学校を作っていく連携の充実を目指したい。 | |

| 評価資料 | 評価 |
|-------------------------|---|
| 教職員アンケート結果 (具体的方策ごと) | <ul style="list-style-type: none"> ・「より良い生活習慣や学習習慣づくりを目指した保護者との連携」について全教職員が「できた・ややできた」と回答した。 ・「学校通信・学級通信等の充実」について全教職員が「できた・ややできた」と回答した。 <p><以下 教職員コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習で地域の方の話を聞いたり、見学に行ったりすることができた。 |
| 各アンケート等の結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの結果、「宿題以外にも家庭学習をしている」と答えた児童の割合は昨年度同様の水準を維持しており、「南小家庭学習のすすめ」が徐々にではあるが浸透しつつある。 ・保護者の多くは、学校が「各種通信により、学校の教育活動や児童の様子を丁寧に伝えている」「保護者からの相談や連絡に、丁寧に対応している」と評価している。 ・「授業参観・学級保護者会などに参加するようにしている」と回答した保護者の割合が非常に多く、統合後の学校の様子に非常に興味をもたれていることが伺える。 ・保護者は、「読書習慣の定着」について課題認識がある。 |
| 自己評価結果 (見解と改善方策) | <p>自己評価の結果は、概ね良好と言える。</p> <p>P T A活動・読み聞かせボランティア・図書ボランティア・見守り隊などの家庭・地域と連携した活動については、昨年度同様に行うことができた。 ゲストティーチャーの積極的な活用にも力を入れて学習に取り組むことができた。 家庭・地域と連携し一定の活動を推進することができた。 また、積極的な情報提供と丁寧な対応は、評価される結果となった。</p> <p>児童・保護者が認識している課題への対応や開かれた学校づくりへの取組を継続発展させていくため、次のことに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各種通信を充実させ、保護者・地域の理解・協力が得られるように努める。 ○保護者と連携し、基本的な生活習慣の確立や、家庭学習・読書習慣の充実に努める。 ○地域と連携し、地域教材を活かした学習の充実を図る。 ○安全な環境を保つための施設・設備の改善及び関係機関との調整。 |
| 学校関係者評価結果 | <p>学校関係者評価の結果は、概ね良好である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と保護者・地域とのコミュニケーションを活性化し、地域学習やゲストティーチャーなど、学校が積極的に活用する姿勢は評価できる。引き続き継続してほしい。 |
| 最終改善方策 | <p>今後もさらに「家庭・地域との連携」や「安全・安心な学校」を継続発展させていくため、次の3点を中心に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各種通信を充実させ、保護者・地域の理解・協力が得られるように努めるとともに、安心・安全な教育環境づくりの推進を図る。 ○保護者と連携し、基本的な生活習慣の確立や、家庭学習・読書習慣の充実に努める。 ○地域と連携し、地域教材を活かした学習の充実を図る。 |